

《編集後記》

IRATSUMEも、いよいよ第10号を迎えました。前号にもまして、多彩で内容ある号になったことは、嬉しいかぎりです。思い起こせば、当初は不安を抱いた船出で、いつ沈没するか、内心はヒヤヒヤでした。それだけに、よくここまで辿りつけたなあ、というのが実感です。創刊号を出したころのことが、ずいぶん昔のような気もする反面、この10年間に何ができたかを考えると、むしろこれからが正念場かもしれません。幸い、会員相互のつながりが強くなり、広がりもしてきたようで、これを最大の武器に進んでいきたいものです。

記念号ということで、高橋匡会長にこの10年間を振り返っていただき、西村登先生には今後の活動の指針ともなるべき原稿をお願いしました。また、木下さんたちの蝶のまとめは、今後の叩き台になるもので、以前から望まれていたものです。蝶の分野では、もうやることがなくなったということを時に耳にしますが、このまとめを見れば、分布面でも未調査の部分が多いことに気付くし、山崎氏がムカシトンボで試みているような生態面からのアプローチも、ほとんど手つかずのままの状態です。

寄せられた原稿は労作が多かったものの、まとめ方や読みやすい文章を書くという観点からは、まだまだ努力を要するものが多く、書き直しをお願いしたものあります。執筆者もこちらも、たいへん苦労をしましたが、いい勉強にもなったこと信じています。

編集は主に、原稿整理・校正を谷角、ワープロ打ちを石田、作図を足立が担当しました。これでしばらくは、心置きなく虫に打ち込めるかと思うとホッとします。今後は徐々にでも、編集業務を地元でやっていってもらえたたらというのが本音です

IRATSUME No.10

1986年5月31日発行

発行者:但馬むしの会

発行人:高橋 匡

編集者:谷角素彦・石田達也・足立義弘

連絡:画668 豊岡市 木下賢司方